

私が住んでいる砂川市には、遊水地がある。私の家の近くにあり、子どもの頃から自転車で一週したり、釣りをしたりと親しんできた場所である。近くを流れる石狩川の氾濫を防ぐために造られたものだ。石狩川は、大雨により過去に何度も氾濫し、この砂川も被害を受けてきた。そのため、蛇行する川を工事で直線にし、残された蛇行跡を遊水地にしたのである。大雨で川の水量が増えると、一時的にこの遊水地に水を引き入れ、水量を減らして洪水を防ぐ役割を持っている。

川を管理している人々のこうした努力のおかげで、今では石狩川が氾濫して被害を受けるということはなくなった。そのためか、石狩川や遊水地について、私自身あまり関心を持っていなかった。小学校の学習で、石狩川の氾濫の歴史や遊水地の役割などを学習したが、それきり考えることもなかった。だが、中学校でSDGsを学習する中、水を大切にすることが目標の一つに掲げられていることを知った。その根拠となるようなアフリカの子どもたちが泥水を飲んでいる映像、干ばつによる水不足の実態をテレビで観ているうちに、このままでいいのだろうか、改めて水について考えるようになった。

水は、私たちの命や暮らしを支える大切なものであり、みんなの手で守るべきものなのだと強く感じた。

私たち日本人にしても、水道の無駄使いに始まり、下水道や河川の汚染、水不足など、深刻な水問題を抱えていることもわかった。水の管理はその専門家に任せておけばよい、自分一人くらい水をどう使おうが関係ない、という意識ならば、すぐに改めるべきだ。いつ水が使えなくなってもおかしくない危機が迫っているからだ。水が使えなくなれば、命にかかわる。だから、他人任せではなく、水を使う私たちこそが、共に水を守っていかなければならないのだ。私も、まず家で水道の節水や油を流さないことを確実に行うことにした。

遊水地に関わっても、その役割を理解し直すことができた。ただの水辺ではなく川の氾濫から私たちを守る大切な存在なのだ。この遊水地には、砂川に暮らしてきた人たちが石狩川を管理する人たちの苦労の歴史が刻まれている。遊水地ができた背景にある、人の思いや歴史を私たちが受け継ぎ、この遊水地をこれからも大切にしていこうと思う。

遊水地は、私たちの暮らしを豊かにする役割も持っている。以前、遊水地の周りに桜の苗木を植えたことや、周りのゴミ拾いに参加したことがあった。当時は活動の目的など考えたこともなかったが、それは水辺の環境を整え、美しい景観にしていく活動だったのだ。水が、私たちの暮らしに豊かさをもたらすのだ。

今、遊水地は、「砂川オアシスパーク」として、夏はカナーやヨット、冬はワカサギ釣りなどが楽しめる私たちの憩いの場となっている。水辺を彩る四季折々の景色は素晴らしい。桜の花に囲まれた水辺や、夕陽の中を渡り鳥が飛んでいく風景に心を奪われる。

水という存在が、私たちの命を育み、暮らしをより豊かなものにしてくれる。水の恩恵に感謝したい。だからこそ、水を大切にしながら水を守っていくこと、これが今の私たちに必要なことなのである。

先日も久しぶりに遊水地を訪れた。桜もそろそろ咲きそうである。帰る前に、落ちていたゴミを拾ってから帰った。自分が遊水地に植えた桜が、大きくなって水辺を彩っていく姿を、これから少しずつ眺めていきたい。

この遊水地の環境を守る一人として、大切な水を守る一人として、これからもゴミ拾いなど小さなことから取り組んでいこうと思っている。